

●幅広い適用作物！多くの害虫に効く！

殺虫剤

農林水産省登録第 11333 号
 性状：類白色粉末
 毒性：普通物*
 有効年限：3 年
 容量：3kg×8、1kg×20
 *は毒劇物に該当しないものを指している通称

ディプロレックス 粉剤

(DEP 粉剤)

有効成分：DEP (PRTR 法第 1 種-225 号) …4.0%

特長

- 適用範囲が広い！
 水稲、果樹、そ菜、特用作物、花卉、樹木などに使えます。
- 多くの害虫に適確な効果！
 食毒、接触毒、ガス毒の 3 つの殺虫作用があり、特に食毒に優れています。
- 作物に安全！
 葉害の危険性が少なく、多くの作物に使用できます。
- 庭園樹の防除にも最適！
 ケムシ類にも卓効があります。

適用病害虫名と使用方法

平成 22 年 12 月の登録内容

作物名	適用病害虫名	10 アール 当り使用量 (kg)	使用時期	本剤の 使用 回数*	使用方法	DEP を含む 農薬の総使 用回数*
稲	ニカメイチュウ第 1 世代	3	14 日*	4 回	散布	4 回
	ニカメイチュウ第 2 世代	4~5				
	ミナミアオカメムシ	3~4.5				
	イネツトムシ、コブノメイ ガ、アワヨトウ	4				
とうもろこし	アワヨトウ					
みかん	コアオハナムグリ	4~6	30 日*	5 回		5 回
なし	カメムシ類	6	7 日*			
ぶどう	コガネムシ類成虫	4~5	30 日*	2 回		2 回
	クリミガ	4	裂果前	5 回		5 回
くり	クリシギゾウムシ、モモノ ゴマダラノメイガ	6				
いちご	コガネムシ類幼虫	9	移植時 (仮植床)	3 回	土壌混和	3 回
きゅうり	ウリハムシ成虫	3~4	前日*		散布	

作物名	適用病害虫名	10アール 当り使用量 (kg)	使用時期	本剤の 使用 回数*	使用方法	DEPを含む 農薬の総使 用回数*
メロン、 まくわうり	ウリハムシ成虫	3~4	前日*	4回	散布	4回
すいか、 かぼちゃ			7日*	6回		6回
だいこん	アオムシ	3~5	14日*	2回		2回
カリフラワー			7日*	5回		5回
はくさい			6回	6回		
キャベツ			21日*	1回		1回
かぶ						
にんじん	キアゲハ幼虫	5	14日*	3回		3回 (粒剤は 2回)
畑わさび わさび	アオムシ、カブラハバチ	4	30日*	2回		2回
			畑育苗期			
ばれいしょ	テントウムシダマシ類	3	14日*	6回	6回	
かんしょ	ナカジロシタバ、ハスモン ヨトウ、イモコガ	4~4.5		4回	4回	
はとむぎ	アワノメイガ	4		60日*	2回	2回
たばこ	ハスモンヨトウ、タバコア オムシ	3~5	—	—	—	
桑	クワノメイガ、ヒシモンヨ コバイ、アメリカシロヒト リ	3				
なら、くぬぎ、 さくら	ドクガ類、マイマイガ	3~4				
すぎ、ひのき	ドクガ類					
まつ類	マツケムシ、 ハラアカマイマイ	3	45日*	4回	4回	
いね科牧草	アワヨトウ					
からまつ	カラマツマダラメイガ若齢 幼虫、ハマキガ類、ハラア カマイマイ					—

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫（摘採）前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す

■■■ 効果・薬害等の注意 ■■■

- 稲に使用する場合は、散布後少なくとも3日間は落水、かけ流しはしない。
- ソルゴー、アルファルファ（1番草）、りんごの旭、祝、あかね種にはかからないように

散布する。

- みかんのコアオハナムグリには開花初期～満開期に2回散布が望ましい。
- 残効性が短いので、なしのカメムシ類には発生に応じてくり返し散布する。
- いちごのコガネムシ類幼虫には仮植床全面に均一に散布し、表層土壌と混和後移植する。
- はとむぎのアワノメイガには産卵最盛期～食入初期の頃に約1週間間隔で2回散布する。
食入後は効果が劣るので時期を失しないよう注意する。
- いね科牧草に散布した場合、散布後45日間は放牧しない。
- 本剤を使用したわさび苗を畑地からわさび田に移植する場合には、使用した農薬がわさび田の水系に持ち込まれないよう、わさびの苗に付着した土を十分に洗い落とす。

【たばこに使用する場合の注意】

- 移植期は1kg/10a，大土寄時は3kg/10aを目安に使用量を遵守して散布する。
- 雨や露などで濡れている時は散布しない。
- 収穫前20日以内の散布はさける。

安全使用上の注意

- 蚕に対して影響があるので、桑に使用后14日間は蚕に桑葉を給餌しない。
- ミツバチに対しては影響があるので、以下のことに注意する。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにする。
 - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園では使用をさける。
 - ③養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努める。
- 散布時は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖作業衣などを着用する。
- 作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをして、衣服を換える。
- 作業時の衣服等は他と分けて洗濯する。
- 眼に対して刺激性があるので、眼に入らないように注意する。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- かぶれやすい人は取扱いに十分注意する。
- 漏出時は、保護具を着用し、掃き取り回収する。
- 移送取扱いは、ていねいに行う。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用后（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

治療法…硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効であると報告されている。

魚毒性等…養魚田では使用しない。河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。散布後は水管理に注意する。散布器具・容器の洗浄水は河川に流さない。また、空容器、空袋などは水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保管…直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

- 食べられません。
- 有効年月内に使用する。
- 体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取扱い及び作業をしない。